

緊急！1日かぎりの初上映会



ラモツォの 七命ノート

チベット亡命者の女性ラモツォと、その家族を6年追ったドキュメンタリー映画『ラモツォの亡命ノート』。

主人公ラモツォの夫ドゥンドゥップ・ワンチェン氏は、2008年、映画をつくっただけで“国家分裂扇動罪”で懲役6年の刑を受けました。2014年6月に釈放されたドゥンドゥップ氏ですが、今も政治的権利が剥奪されたまま、中国で生活をし、家族は再会を果たせていません。

その政治的権利が、ことし6月5日に戻ってくることになり、そのタイミングに合わせて、今秋公開予定の映画を1日限り初公開&トークイベントを行います。

トークゲスト 渡辺一枝さん（作家）

1980年代よりチベットを度々訪ね、チベット人と交流を重ねる。チベットにまつわる著作も多数。『チベットを馬で行く』『消されゆくチベット』など。チベットの自然や歴史にくわえて、人々の暮らしぶりや生きる知恵を記録している。

※当日、在日チベット人もトークに参加していただきます。

2009.9 Dharmsala



2014.3 U.S.A



2007 Tibet

1日かぎりの『ラモツォの亡命ノート』初上映会

[日時] 6月4日(日) 14時～16時30(13:30開場)

[場所] 新宿歴史博物館 2階講堂 新宿区三栄町22 Tel 03-3359-2131



※詳細は<https://motion-gallery.net/projects/lhamotso>

[参加費] 1500円 (クラウドファンディング応援者500円割引) ※予約の際に、クラウドファンディングでのお名前を記載してください。

[定員] 70名

[主催] Students for a Free Tibet Japan <http://www.sftjapan.org>
在日チベット人コミュニティー <http://www.tibetancommunity.jp>
『ラモツォの亡命ノート』を上映する会

ご予約は「こくちーず」で。 <http://www.kokuchpro.com/event/75d5d8e5f75f1416265053032982d593/>



イベント終了後は、会場から歩いて10分の都内で唯一のチベット料理屋「タシデレレストラン」で懇親会を予定しています。

チベットのミュージシャン・ゲニエンさんによるライブも♪お気軽にいらしてください。 タシデレレストラン 新宿区四谷坂町12-18 Tel 03-6457-7255

1日かぎりの初上映会

ラモツォの七命ノート

10月ポレポレ東中野にて公開決定！

ドキュメンタリー映画

『ラモツォの亡命ノート』(93分)

夫が政治犯として逮捕され、妻のラモツォは、故郷のチベットへ帰ることができなくなった。彼女とその家族が、チベットからインド、アメリカへと亡命していく6年間を追った旅の記録。

夫のドウンドゥップ・ワンチェン氏は、中国で映画をつくっただけで、“国家分裂扇動罪”で懲役6年の刑を受けた。妻のラモツォと子ども4人は、チベット亡命政府のあるインドのダラムサラで生活を余儀なくされる。学校へ行ったことのないラモツォは、道ばたでパンを賣ることで生計を立てた。

そんな彼女は、読み書きができないゆえに、日々の出来事をビデオカメラに記録する。その内容は、ときに弱音をはき、ときに自分自身を皮肉り、誰にも打ち明けたことのない心の吐露だった。彼女の映像日記と旅路のはてに、夫との再会は叶うのか——。

21世紀の難民のあり方を問う、新しいロードムービーが完成した。

『ラモツォの亡命ノート』

監督・小川真利枝

2007年早稲田大学教育学部卒業後、テレビ番組制作会社に就職。2011～12年、インドのダラムサラにてチベット語留学。2009年に初めてダラムサラを訪れたときに映画の主人公ラモツォと出会い、撮影を始める。

『ラモツォの亡命ノート』は、日本だけでなく、海外へも上映を広げるため、クラウドファンディングを実施しています。

モーションギャラリー 「ラモツォの亡命ノート」で検索

<https://motion-gallery.net/projects/lhamots>



勇気あるチベット人映画制作者

ドウンドゥップ・ワンチェン

1949年の中国軍の侵攻をきっかけに、チベットは中国政府に占領され、多くのチベット人がダライ・ラマ14世と共に亡命を余儀なくされました。そして北京五輪を直前に控えた2008年3月には、抑圧に耐えかねたチベット人の怒りが爆発。騒乱がチベット全土に広がりました。

そんなチベット人の本当の思いを世界中に伝えようと決意を秘め、カメラを携えてチベット全土を何千キロも旅をしながら人々のインタビューを行った勇気ある映画制作者がいます。当時35歳のドウンドゥップ・ワンチェンさんは2007年11月から2008年3月にかけ、100名を超える普通のチベット人たちのインタビューを行いました。テープは協力者の手によってヨーロッパへ持ち出され、編集されて約20分の映像、“LEAVING FEAR BEHIND”としてまとめられることになりましたが、取材・撮影したドウンドゥップ・ワンチェンさんは、騒乱の最中、2008年3月26日に中国当局に拘束されました。しかし、彼の作品は、全世界に広まり、彼の勇敢な行動が「チベット人の今」を鮮明に映し出したとして2012年、ニューヨークのジャーナリスト保護委員会から「国際報道自由賞」が与えられました。

ドウンドゥップ・ワンチェンさんは、2014年6月5日に釈放されたが、その後も3年間の政治的権利剥奪措置が取られ、移動の自由が奪われたままであります。家族によれば、彼は拷問を受け、獄中のひどい扱いからB型肝炎に感染した可能性があるということです。

世界35カ国でチベット問題を訴えているスチューデンツフォーフリーチベットでは、2008年からドウンドゥップ氏の早期の釈放と家族の再会を働きかけてきました。今年6月にも全世界的にアクションを起こす予定です。